

# 一般社団法人 石川県臨床衛生検査技師会

代表:長原 三輝雄 (北陸大学医療保健学部)

1. これまでの取組内容
2. 具体的な成果
3. 今後も継続して実施する必要性
4. 今後の取組と期待される効果

# 1. これまでの取組内容

## 本事業の目的や主な取組内容等

### (背景)

- ・糖尿病は病態や慢性合併症の把握に検査が不可欠であり、臨床検査技師が療養指導の場面で、定期的な検査の必要性や自己血糖測定（SMBG）などの検査内容を十分に説明し、結果を自分自身で把握しておくことの重要性を伝えることは極めて大切である。
- ・しかし、臨床検査技師は患者心理やカウンセリング手法などの教育的機会が少なく、療養指導の場面で対応に苦慮することも多い。

### (目的)

臨床検査技師の糖尿病チーム医療参画の質的向上を図る

### (主な取組内容)

- ・検査説明・相談のできる技師育成研修および採血、検査についての説明  
検査の目的・方法・注意事項、検査後の結果の説明については、これまで医師が行っていたが、その一部を業務とする国の方針に従い、そのために必要な患者心理やコミュニケーション能力についての研修事業である。具体的には
  - ・医師との協議により許される範囲での検査結果の解説（慢性疾患の患者さん、糖尿病の教育入院の患者さん等を主たる対象として）について具体例を取り入れた研修。
  - ・採血時の手技や患者対応の研修、特に病棟採血を視野に入れた対応の検討
- ・市民公開講座  
「検査と健康展」を全国展開の一環として実施、その中で啓蒙活動としての講演などを行う。

## 2. 具体的な成果

(平成26年度～平成30年度)

- ・「検査説明・相談のできる技師育成研修」全国均一プログラム、受講費の研修  
→計400名の県内臨床検査技師が受講し、会員数（石川県約700名）に対しての県別受講率では全国1位。その他石川県独自の「検査説明・相談のできる技師育成」を目的とした各部門の研修(下表)

(令和元年度～)

- ・「医療現場における職能向上のための臨床検査技師育成講習会」  
医療現場における職能向上と多職種との連携を図るための育成講習会としてを新たに実施
- ・石川県独自の「検査説明・相談のできる技師育成」を目的とした各部門の研修(下表)

年度	対象研修会の数	(Web研修数)	総参加者	
平成30年度	28	—	1311	
令和元年度	31	—	1250	
令和2年度	10	10	758	
令和3年後	15	15	919	
令和4年度	14	9	747	

# 3. 今後も継続して実施する必要性

## タスク・シフト/シェアの推進

- 近年の法令改正により、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関連して糖尿病における持続皮下グルコース検査について従来、医師・看護師の業務となっている本検査について臨床検査技師の実施可能となり、その対応も急務となっている。
- 石川県においても臨床検査技師のタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会が精力的に実施されており、現在、180名以上の修了者がある。
- それに伴い、CGM実施の施設も増加すると想定され、本年は特にCGM実施に関連した研修が必要と考えられる。

## 地域の糖尿病療養の質の向上

- 研修継続により、より多くの会員が糖尿病関連検査の説明や相談に従事できる基礎体制を推進することで、さらに活動の場を広げ、地域での糖尿病対策に貢献する。
- その上で医師会等の関連団体への働きかけにより多くの医療施設での実施に向けた環境整備を行う予定であり、これらの実践により、糖尿病療養における質の向上を推進する。

## 4. 今後の取組と期待される効果

(今後の取組)

### ① ベッドサイド実践講習会

多職種の業務を理解し、コミュニケーション力を増すことでさらに活動の場を広げ、地域での糖尿病対策に貢献する。

### ② 糖尿病における持続皮下グルコース検査への対応

医師の働き方改革を進めるためのタスク・シスト/シェアの推進に関連して、従来、医師・看護師の業務となっている糖尿病における持続皮下グルコース検査について臨床検査技師の実施可能なものとなることへの対応も行いたい。

### (期待される効果)

- ・ 臨床検査技師による検査説明や相談の実施により、糖尿病チームにおけるチーム医療に貢献できる
- ・ 患者心理や検査の知識を学ぶことにより、糖尿病関連検査の質の高い説明や相談に対応できる臨床検査技師が増加することは、医療施設内のみならず地域における啓蒙活動に寄与できる。